

少人数学級の推進などの定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元を求める意見書

日本はOECD諸国に比べて、一学級当たりの児童生徒数や教員一人当たりの児童生徒数が多くなっている。しかしながら、第7次教職員定数改善計画の完成後9年もの間、国による改善計画のない状況が続いている。自治体が見通しを持って安定的に教職員を配置するためには、国において国庫負担に裏付けされた定数改善計画の策定が必要である。

また、新しい学習指導要領により、授業時数や指導内容が増加しており、日本語指導などを必要とする子どもたちや障がいのある子どもたちへの対応、いじめ・不登校などの課題もある。こうしたことの解決に向けて、一人ひとりの子どもたちへのきめ細かな対応や学びの質を高めるための教育環境を実現するためには、少人数教育の推進を含む計画的な教職員定数改善が必要である。

一部の自治体においては、厳しい財政状況の中、独自財源による定数措置が行われているが、国の施策として定数改善にむけた財源保障をすべきである。

三位一体改革により、義務教育費国庫負担制度の負担割合が2分の1から3分の1に引き下げられ、その結果、自治体財政が圧迫され非正規教職員も増えている。子どもたちが全国どこに住んでいても、一定水準の教育を受けられることが憲法上の要請である。

子どもの学ぶ意欲・主体的な取組を引き出す教育の役割は重要であり、そのための条件整備が不可欠である。

よって、政府におかれては、2016年度政府予算編成において下記事項を実現されるよう強く要望する。


記

- 1 子どもたちの教育環境改善のために計画的に少人数学級を推進すること。OECD諸国並みの豊かな教育環境を整備するため、少人数学級の着実な推進を図ること。
- 2 教育の機会均等と水準の維持のため、義務教育費国庫負担制度を堅持すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成27年6月25日

衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣
総務大臣
財務大臣
文部科学大臣



あて

三木市議会議長 加 岳 井 茂